

**PHIL
HAR
MONY**

5

May 2021

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、
以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため、休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々と距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 当日は極力接触を避けるため、会場内での当日券販売、チケットの当日精算は行いません。必ず事前に発券されたチケットをお持ちの上、ご来場ください。
- 当日、チケット半券のもぎりは、係員の確認後、お客様ご自身でお願いいたします。
また、プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。

-
- 喫茶コーナーは休止しております。
 - 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
 - クロークは休止しております。
 - ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
 - 会場内で他の公演のチケット販売は行いません。またCD等の販売もございません。

-
- 公演により座席数を制限している場合があります。
 - 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
 - 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の入替えに努めます。
 - スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
 - 厚生労働省による「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」の活用を推奨いたします。

Philharmony

CONTENTS
MAY 2021

5

- 3 [公演プログラム] **サントリーホール** | 5月15日、16日
- 11 [公演プログラム] **東京芸術劇場** | 5月21日、22日
- 17 [公演プログラム] **サントリーホール** | 5月26日、27日
- 22 [シリーズ] **N響百年史** | 第19回 | 日ノ基本条約と日露交驩交響管絃楽演奏会 片山杜秀
- 26 ファビオ・ルイーゼ、NHK交響楽団首席指揮者に就任——2022-23シーズンから
- 27 Information / 公演情報 (2021年6月公演 / Music Tomorrow 2021 / 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート)
- 28 特別支援・特別協力・賛助会員
- 32 NHK交響楽団メンバー
- 33 NHK交響楽団定期公演 2021-22シーズンプログラム
- 表3 役員等・団友

お客様へのお願い



公演中は携帯電話、
時計のアラーム等は
必ずお切りください



演奏は最後の余韻まで
お楽しみください



場内での録画、録音、
写真撮影は固くお断り
いたします



私語、パンフレットを
めくる音など、
物音が出ないように
ご配慮ください



演奏中の入退場は
ご遠慮ください



補聴器が
正しく装着されているか
ご確認ください

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援


With Special Support of

岩谷産業株式会社

Iwatani Corporation

 三菱地所株式会社

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

 みずほ銀行

Mizuho Bank, Ltd.

公益財団法人 渋谷育英会

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

5/15 **土** 6:00pm5/16 **日** 2:00pm

サントリーホール

Suntory Hall

May

15(Sat) 6:00pm

16(Sun) 2:00pm

指揮

尾高忠明

Tadaaki Otaka, conductor

チェロ

[ハイドン]

辻本 玲

Rei Tsujimoto, cello

オーボエ/
クラリネット/
ファゴット/
ホルン

[モーツァルト]

吉村結実、伊藤 圭、水谷上総、福川伸陽

Yumi Yoshimura, oboe/ Kei Ito, clarinet/

Kazusa Mizutani, bassoon/ Nobuaki Fukukawa, horn

ハープ

[ドビュッシー]

早川りさこ

Risako Hayakawa, harp

トランペット

[バヌニク]

菊本和昭、長谷川智之、安藤友樹、山本英司

Kazuaki Kikumoto/Tomoyuki Hasegawa/Tomoki Ando/ Eiji Yamamoto, trumpets

コンサートマスター

白井 圭

Kei Shirai, concertmaster

ハイドン

チェロ協奏曲 第2番 二長調 作品101

Hob. VIIb-2 [25']

I アレグロ・モデラート

II アダージョ

III アレグロ

モーツァルト

4つの管楽器と管弦楽のための協奏交

響曲 変ホ長調 K. 297b [32']

I アレグロ

II アダージョ

III アンダンティーノ・コン・ヴァリアツィオーニ

—休憩(20分)—

Franz Joseph Haydn (1732-1809)

Cello Concerto No. 2 D Major

Op. 101 Hob. VIIb-2

I Allegro moderato

II Adagio

III Allegro

Wolfgang Amadeus Mozart

(1756-1791)

Symphonie concertante for 4

Winds and Orchestra E-flat Major

K. 297b

I Allegro

II Adagio

III Andantino con variationi

ドビュッシー

神聖な舞曲と世俗的な舞曲[10']

- I 神聖な舞曲
- II 世俗的な舞曲

パヌフニク

交響曲 第3番「神聖な交響曲」

[22']

- I 第1の幻影
- II 第2の幻影
- III 第3の幻影
- IV 賛美歌

— intermission (20 minutes) —

Claude Debussy (1862–1918)

Danse sacrée et danse profane

- I Danse sacrée
- II Danse profane

Andrzej Panufnik (1914–1991)

Symphony No. 3 “Sinfonia sacra”

- I Vision I
- II Vision II
- III Vision III
- IV Hymn

Artist Profiles

尾高忠明 (指揮)



1947年生まれ。桐朋学園大学で齋藤秀雄に師事。1970年、第2回民音指揮者コンクールで第2位入賞。1972年、オーストリア政府から奨学金を得てウィーン国立音楽大学に留学し、指揮をスワロフスキーに、オペラをシュパンナーゲルに学んだ。以後、東京フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団、読売日本交響楽団、紀尾井シンフォニエッタ東京、メルボルン交響楽団、新国立劇場等で要職を担い、現在大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督などを務める。ロンドン交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、BBC交響楽団、ベルリン放送交響楽団、hr交響楽団など世界各地のオーケストラにも定期的に客演を重ねる。サントリー音楽賞、ウェールズ音楽演劇大学名誉会員、大英勳章CBE、英国エルガー協会エルガー・メダル、ウェールズ大学名誉博士号など受賞多数。指揮者デビューは、1971年、NHK交響楽団との放送収録。以後N響とは定期公演、全国各地での公演、放送収録など、さまざまな機会を通じて共演を重ね、2010年、正指揮者に就任。2012年には北京、天津、上海をめぐる中国ツアーを率いた。最近では、自身の曾祖父、渋沢栄一が主人公として描かれる2021年のNHK大河ドラマ『青天を衝け』のテーマ音楽収録で指揮を担当した。2012年に有馬賞、2019年に日本放送協会放送文化賞を受賞。

辻本 玲(チェロ)



愛知県出身。7歳でチェロを始める。東京藝術大学音楽学部を首席で卒業し、その後シベリウス音楽院(ヘルシンキ)、ベルン芸術大学に留学。2009年、ガスパール・カサド国際チェロ・コンクールで日本人最高位となる第3位入賞。2013年、第12回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。ベルリン交響楽団や日本のプロ・オーケストラなどと、ソリストとして数多く共演。2020年、NHK交響楽団首席チェロ奏者に就任。

吉村結実(オーボエ)



大阪府出身。12歳よりオーボエを始める。東京音楽大学、パリ地方音楽院卒業。2011年、第9回東京音楽コンクール第3位、第10回東京音楽大学コンクールで第1位。2013年に第82回日本音楽コンクール第1位。オーボエを高山郁子、宮本文昭、古部賢一、N. シスモンディに、イングリッシュ・ホルンをC. グランデルに師事。兵庫芸術文化センター管弦楽団を経て、2020年、N響に首席オーボエ奏者として入団。

伊藤 圭(クラリネット)



宮城県出身。東京藝術大学卒業。2004年、日本クラリネットコンクール第1位。2006年、日本音楽コンクール入選。2014年、ユン・イサン《クラリネット協奏曲》、2019年に「天皇陛下御即位30年奉祝感謝の集い」でモーツァルト《クラリネット協奏曲》の独奏を務めた。千石進、日比野裕幸、野田祐介、山本正治、三界秀実、村井祐児に師事。藝大フィルハーモニア、東京都交響楽団を経て、2011年よりN響首席奏者。

水谷上総(ファゴット)



京都府出身。16歳よりファゴットを始め、仙崎和男に師事。京都市立芸術大学で光永武夫に師事し、1987年に同大学を卒業。その後ドイツ学術交流会給費留学生としてデトモルト音楽大学に留学、H. ユンクに師事し、1990年同大学を最優秀で卒業。ライン・ドイツ歌劇場管弦楽団、群馬交響楽団を経て、2001年よりN響首席奏者。ソリストとして群馬交響楽団、N響、日本フィルハーモニー交響楽団と共演している。

福川伸陽 (ホルン)



神奈川県出身。2008年、第77回日本音楽コンクール・ホルン部門で第1位受賞。ソリストとして国内外のプロ・オーケストラと共演を重ね、2019年にはロンドンのウィグモアホールで、ソロ・リサイタルを行った。ホルンのレパートリーの拡大をライフワークとして、作曲家への委嘱や世界初演を積極的に行っている。20歳で日本フィルハーモニー交響楽団の首席奏者に就任し、2013年N響に入団。2015年より首席奏者。

早川りさこ (ハープ)



千葉県出身。東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。第3回日本ハープコンクールおよび第2回アルピスタ・ルドヴィコ・スペイン国際ハープコンクールで優勝。2013年にソリストとしてタン・ドゥン《女書：The Secret Songs of Women—13のマイクロフィルム、ハープ、オーケストラのための交響曲》をN響と世界初演。またヒンデミットやアルウィンの協奏曲などを日本初演。2001年、N響に入団。

菊本和昭 (トランペット)



兵庫県出身。京都市立芸術大学卒業。同大学院を首席で修了。ドイツのフライブルク音楽大学およびカールスルーエ音楽大学に留学。第72回日本音楽コンクール第1位、E. スミス国際トランペット・コンペティション第2位などを受賞。京都市交響楽団を経て、2012年、N響に首席奏者として入団。早坂宏明、有馬純昭、A. プログ、E. アントニー、R. フリードリヒ、E. H. タール、K. ブレーカー、L. ヴゴブラトヴィッチに師事。

長谷川智之 (トランペット)



北海道出身。東京藝術大学卒業。杉木峯夫、松田次史、関山幸弘に師事。2005年、第22回日本管打楽器コンクールで第2位、2006年には第75回日本音楽コンクールで第1位を受賞。ソリストとして東京フィルハーモニー交響楽団と協奏曲をたびたび演奏。東京フィルハーモニー交響楽団首席トランペット奏者を経て、2017年、N響に首席奏者として入団。プラス・ヘキサゴンなどのメンバーとして、室内楽にも取り組む。

安藤友樹(トランペット)



宮城県出身。東京藝術大学卒業。杉木峯夫、津堅直弘、森岡正典、井川明彦に師事。大学在学中の2004年、大曲新人音楽祭コンクールで優秀賞を受賞。2008年、日本演奏連盟主催のオーディションに合格し、アルチュニアン《トランペット協奏曲》を山下一史指揮仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演。東京フィルハーモニー交響楽団を経て、2017年N響に入団。エマーノン・ブラス・クインテットメンバー。

山本英司(トランペット)



静岡県出身。東京藝術大学を卒業し、同大学の新人演奏会に出演。2000年、第69回日本音楽コンクールで入選。トランペットを北村源三、室内楽を稲川榮一、またマスタークラスにおいてウィーン・フィル元首席奏者H. ガンシュとH. P. シュー、メロポリタン歌劇場管弦楽団元首席奏者M. グールドらに師事。2004年から9年間、読売日本交響楽団に在籍し、2014年にN響に入団。日本トランペット協会常任理事。

Program Notes | 安川智子

神聖さの範囲は時代と共に変化する。シンフォニーの語源は「ともに響き合う」という意味のギリシア語である。その協和の精神が神聖さに結びつくこともあれば、ジャンルとしての交響曲が聖なる威厳を保つベートーヴェン以後の世界もある。本日は19世紀の威厳に満ちた交響曲から少し離れて、18世紀と20世紀の「ともに響き合う」協奏的作品を、さまざまな独奏楽器のナビゲートによりお届けする。

ハイドン

チェロ協奏曲 第2番 ニ長調 作品101 Hob. VIIb-2

ヨーゼフ・ハイドン(1732~1809)は1761年にハンガリーのエステルハージ侯爵家に副楽長として赴任し、1766年に楽長に昇進した。以後1790年まで続くエステルハージ家への奉仕時代に、今日確認されているハイドンの2つのチェロ協奏曲が作曲された。ニ長調の《第2番》は、エステルハージ家の宮廷楽団で1778年から首席チェリストであったアントン・クラフト(1749~1820)のために作曲されたのではないかとされている。元来

は通奏低音を担う楽器であったチェロは、1760年代以降、独立したパートとして活躍する場面が増え、ハイドンの弦楽四重奏曲も多くがこのエステルハーゼ時代に書かれている。室内乐的ともいえる小編成のエステルハーゼ宮廷楽団で、オーケストラの一員として低音を支えてきたチェロが、真の独奏者として楽団を率い、華を添える。聴きごたえ十分の、チェロの魅力が満載の名曲である。

第1楽章(アレグロ・モデラート、4/4拍子)は、オーケストラによる冒頭の第1主題が、断片化したり逆行形になったりしながら展開し、楽章全体を支配する。独奏チェロも同じニ長調の第1主題から始まるが、すぐに自在な動きで装飾的变化を見せる。イ長調に転調した後独奏チェロが第2主題を奏でるなど、ソナタ形式の輪郭がくっきりとみえる。コーダ部では独奏チェロの即興的カデンツァが期待される。第2楽章(アダージョ、2/4拍子、イ長調)では、第1楽章とは逆に独奏チェロがオーボエと弦楽のみのオーケストラを先導する。 Rond形式風に冒頭主題が2度回帰し、チェロのカデンツァを経て静かに終わる。第3楽章(アレグロ、6/8拍子)は、快活なRond主題と独奏チェロの躍動的な動き、重音、走句などの技巧が楽しい。中間のニ短調への転調部分も味わい深い。

作曲年代	1783年
初演	詳細不明
楽器編成	オーボエ2、ホルン2、弦楽、チェロ・ソロ

モーツァルト

4つの管楽器と管弦楽のための協奏交響曲 変ホ長調 K. 297b

協奏交響曲(サンフォニー・コンセルタント)とは、18世紀から19世紀初頭にパリで流行した、複数の独奏楽器を伴う交響曲である。バロック時代の合奏協奏曲(コンチェルト・グロッツ)と似ているが、より独奏者の役割が増し、陽気で祝祭的な雰囲気をもつ。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~1791)は、母親とパリに滞在中の1778年4月5日、父レオポルトに宛てた手紙の「追伸」として、この「サンフォニー・コンセルタント」を1曲作曲するところだと述べている。フルート、オーボエ、ホルン、ファゴットの名奏者たちと、パリの管弦楽団コンセル・スピリチュエルの演奏会用であった。しかし楽団支配人のルグロがこの楽譜を写譜に出さず、演奏もされないまま失われてしまった(5月1日父への手紙より)。この幻の楽曲が、フルートをクラリネットに代えた協奏交響曲として蘇^{よみがえ}ったのは、19世紀にモーツァルト研究者オットー・ヤーン(1813~1869)の遺品から、この編成の楽譜が発見されたためである。1938年1月15日の『メルキュール・ド・フランス』誌では、モーツァルトが頭の中に保存していたこの交響曲を、「並外れた記憶力」で書き直し、その際フルート・パートをクラリネットに置き換えたと紹介しているが、モーツァルト自身が作曲したものか、真相は未だ明らかではない。

第1楽章(アレグロ、4/4拍子)は、動的な第1主題と、なだらかな曲線を描く旋律的な第2主題によるソナタ形式で書かれている。協奏曲の典型通り、オーケストラが提示部で2つの主題を奏した後、4人の独奏者たちが同じ提示部を対話的に聴かせる。第2主題の旋律を担当するオーボエは、展開部でも短調の美しいパッセージで魅了し、再現部はオーケストラと4人の独奏者が一体となって奏する。第2楽章(アダージョ、4/4拍子)では管楽器の叙情的な性格と四声の対話の美しさがより一層際立つ。第3楽章(アンダンティーノ・コン・ヴァリアツィオーネ、2/4拍子)は主題と10の変奏からなる変奏曲である。最初に主題旋律をオーボエが担当した後、変奏ごとに主役が交代し、音色の変化を楽しめる。最後はアレグロで主題が戻ってくる。

作曲年代	1778年?
初演	詳細不明
楽器編成	オーボエ2、ホルン2、弦楽、オーボエ・ソロ、クラリネット・ソロ、ファゴット・ソロ、ホルン・ソロ

ドビュッシー

神聖な舞曲と世俗的な舞曲

ハープと弦楽合奏のための「2つの舞曲」は、ピアノ会社であるプレイエル社が開発したクロマティック(半音階的)ハープで演奏するために作曲された。19世紀にピアノ製作で競合し、ショパンとリストの時代を彩ったプレイエルとエラールは、ハープ製作でもしのぎを削っていた。エラール社が開発したペダルつきハープに対抗して、プレイエル社がブリュッセル音楽院のコンクール曲としてクロード・ドビュッシー(1862~1918)に依頼したのがこの作品である。今日ではペダルつきハープで演奏される。

ドビュッシーの音楽におけるハープは、《牧神の午後への前奏曲》(1894)のように古代神話をイメージさせる。したがって〈神聖な舞曲〉はキリスト教的な宗教性よりもむしろ、古代ギリシアや異教的世界の表現といってよい。冒頭の宗教的な旋律と響きを創り出すニ短調の自然短音階、すなわち「ラの旋法」は、当時音楽史家のブルゴー・デュークードレーが「アポロンの旋法」と呼んでいたものである。サラバンド風のゆったりとした3拍子。一方〈世俗的な舞曲〉は「レーソ#」の増4度の響きが特徴的な「ファの旋法」(教会旋法ではリディア旋法)である。当時は古代人にとって享樂的で神聖さのない旋法であると理解されていた。ワルツ風の3拍子である。音楽史的な裏付けを意識せずとも、ドビュッシーが生み出す音響が瞬時に異世界へと導いてくれる。

作曲年代	1904年
初演	1904年11月6日、エドゥアール・コロヌ指揮、リュシル・アデル・ヴェルムゼ・デルクールによるハープ独奏、コロヌ管弦楽団
楽器編成	弦楽、ハープ・ソロ

パヌフニク

交響曲 第3番「神聖な交響曲」

第2次世界大戦下の激動の時代を生き抜いたポーランド出身の指揮者・作曲家、アンジェイ・パヌフニク(1914~1991)は、戦火で一度自作品のすべてを失っており、戦後本格的に作曲家としてのキャリアを再構築することで、20世紀に確かな痕跡を残した。彼の全10曲の交響曲は《第10番》を除いて何らかの形容がつけられており、交響詩のように、各曲に深い意味が込められている。

前作《第2番》が平和を願う悲歌的な作品であったのに対して、交響曲第3番にあたる《シンフォニア・サクラ(神聖な交響曲)》は、パヌフニクの言葉を借りれば、「英雄的かつ宗教的」な特徴をもつ。1966年のキリスト教国ポーランド1000年を祝う機会のために作曲され、1963年、モナコクレーニエ3世作曲コンクールで一等賞を獲得した。

本作は〈3つの幻影(ヴィジョン)〉と〈賛美歌〉の2部分からなる。〈3つの幻影〉は短く対照的な性格をもち、中心となる楽器も異なる。〈第1の幻影〉は4本のトランペットのみによるファンファーレである。〈第2の幻影〉は弦楽器のみによる神秘的で瞑想的な祈りであり、〈第3の幻影〉では打楽器が力強いリズムで闘争の歴史を表現する。パヌフニクはこの交響曲の全体を貫くテーマとして、ポーランド語による最初期の聖歌《ボグロジツァ(Bogurodzica)》の旋律を採用した。この旋律を用いて、教会における聖母への祈りと、騎士たちによる戦場での祈りという、ポーランドの歴史の2つの側面を表現したのである。〈3つの幻影〉では、この聖歌の旋律を構成する「音程」がそれぞれに振り分けられ、モチーフを作っている。〈第1の幻影〉では4度、〈第2の幻影〉では長2度、〈第3の幻影〉では短2度である。そして第2部の〈賛美歌〉において、これらの音程がひとつとなった聖歌の完全な旋律が立ち現れる。弱音の弦楽器ハーモニクスに始まり、次第に和声の厚みを増して、最後に全合奏で奏でられる《ボグロジツァ》の旋律は、ポーランド1000年の歴史にふさわしい、自国への誇りに満ちた賛歌となる。

作曲年代	1963年
初演	1964年8月12日、モンテ・カルロ(モナコクレーニエ3世宮殿)にて。ルイ・フレモー指揮、モンテカルロ国立歌劇場管弦楽団
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット4(スコア上の指定では、舞台上の四隅で演奏)、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、小太鼓、中太鼓、大太鼓、タムタム、シンバル、サスペンデッド・シンバル、トライアングル、弦楽、

安川智子 | Tomoko Yasukawa

北里大学一般教育部専任講師。おもな研究領域は19世紀から20世紀初頭のフランス音楽および音楽理論史。

5/21 **金** 7:00pm5/22 **土** 2:00pm

東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre

May

21(Fri) 7:00pm

22(Sat) 2:00pm

指揮

原田慶太楼

Keitaro Harada, conductor

バンドネオン

三浦一馬

Kazuma Miura, bandoneon

コンサートマスター

白井 圭

Kei Shirai, concertmaster

グアルニエーリ

弦楽器と打楽器のための協奏曲

[日本初演] [15']

- I カ強く
- II 郷愁
- III おどけて

ピアソラ

バンドネオン協奏曲「アコンカグア」

[20']

- I アレグロ・マルカート
- II モデラート
- III プレスト

— 休憩 (20分) —

ヒナステラ

協奏的変奏曲 作品23 [25']

- I チェロとハープによるテーマ
- II 弦楽器の間奏曲
- III フルートによる愉快的な変奏曲
- IV クラリネットによるスケルツォの変奏曲
- V ヴィオラによる劇的な変奏曲
- VI オーボエとファゴットによるカノンの変奏曲
- VII トランペットとトロンボーンによるリズム的変奏曲

Camargo Guarnieri (1907–1993)

Concerto for String Orchestra and Percussion [Japan Première]

- I Vigoroso
- II Saudoso
- III Jocososo

Astor Piazzolla (1921–1992)

Bandoneón Concerto “Aconcagua”

- I Allegro marcato
- II Moderato
- III Presto

— intermission (20 minutes) —

Alberto Ginastera (1916–1983)

Variaciones Concertantes Op. 23

- I Tema per violoncello ed arpa
- II Interludio per corde
- III Variazione giocosa per flauto
- IV Variazione in modo di scherzo per clarinetto
- V Variazione drammatica per viola
- VI Variazione canonica per oboe e fagotto
- VII Variazione ritmica per tromba e trombone
- VIII Variazione in modo di moto perpetuo per violino

- VIII ヴァイオリンの無窮動による変奏曲
- IX ホルンによる田園風変奏曲
- X 管楽器による間奏曲
- XI コントラバスによるテーマの再現
- XII オーケストラによるロンドのフィナーレ

ファリャ

バレエ組曲「三角帽子」第1番 [12']

- I 序奏
- II 粉ひき女の踊り
- III お代官様
- IV 粉ひき女
- V ぶどう

- IX Variazione pastorale per corno
- X Interludio per fiati
- XI Represa dal tema per contrabbasso
- XII Variazione finale in modo di rondo per orchestra

Manuel de Falla (1876–1946)

“El sombrero de tres picos,” ballet suite No. 1

- I Introducción (Afternoon)
- II Danza de la molinera
- III El corregidor
- IV La molinera
- V Las uvas

Artist Profiles

原田慶太楼 (指揮)



©Couda Pictures

1985年東京生まれ。オハイオ州インターロックン芸術高校で、指揮をフレデリック・フェネルに師事。ロシアのサンクトペテルブルクでも指揮を学ぶ。2009年創設者ロリン・マゼールの招きでキャッソルトン音楽祭に、2010年音楽監督ジェームズ・レヴァインじょうへいの招聘によりタンゲルウッド音楽祭に、2011年には芸術監督ファビオ・ルイーゼの招請によりバシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌と、著名な教育音楽祭に続けて参加。これまでに、ロバート・スパーノ、マイケル・ティルソン・トーマス、オリバー・ナッセン、ヘルベルト・ブロムシュテットなどに師事。20歳でジョージア州のメーコン交響楽団アシスタント・コンダクターに就任したのを皮切りに、プロ・オーケストラでのキャリアを開始。2006年にはモスクワ交響楽団で指揮者デビュー。2015年から4年間にわたりシンシナティ交響楽団および同ポップス・オーケストラのアシスタント・コンダクターを務めた。2020年シーズンからジョージア州サヴァンナ・フィルハーモニックの音楽・芸術監督に、2021年4月には東京交響楽団正指揮者に就任した。N響との初共演は2019年8月の「フェスタサマーミュージザKAWASAKI」と「N響ほっとコンサート」。2020年11月にはアメリカをテーマとする2つの個性的なプログラムでN響から情熱的な演奏を引き出し、話題を呼んだ。

三浦一馬 (バンドネオン)



1990年、埼玉生まれ。10歳で小松亮太のもとでバンドネオンを始める。2006年、バンドネオンの世界的権威、ネストル・マルコーニと別府アルゲリッチ音楽祭で出会う。その後自作CDの売上で渡航費を捻出してアルゼンチンに渡り、現在に至るまで同氏に師事。2008年10月、第33回国際ピアノ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝。2011年の別府アルゲリッチ音楽祭では、アルゲリッチやバシュメットら

世界的音楽家と共演した。2007年、井上道義指揮神奈川フィルハーモニー管弦楽団と共演してオーケストラ・デビューを果たし、以後国内の主要なオーケストラと共演。2017年、デュッセルドルフでドグマ室内管弦楽団とマルコーニの作品でソロを務めた。録音にも積極的に取り組み、これまでにソロ・アルバム4作、自身の五重奏団および室内オーケストラ「東京グランド・ソロイスツ」によるアルバムを1作ずつリリース。2021年のNHK大河ドラマ『青天を衝け』では「紀行」の演奏を担当。N響の舞台に登場するのは今回が初めてとなる。使用楽器は、恩師マルコーニより譲り受けた銘器 Alfred Arnold (1938)。

Program Notes | 小室敬幸

日本でアメリカといえば、十中八九はアメリカ合衆国のことを指すが、本来アメリカは中南米も含めて形成されている。音楽でそれを表現したのが、ジャズだけでなくラテン音楽も大胆に取り入れたバーンスタインのミュージカル『ウエスト・サイド・ストーリー』であった。多様なバックグラウンドによる文化が交わったり、共存したり、時にぶつかり合ったりする……それこそが、中南米も含めたアメリカ音楽の魅力であり、今回4人の作曲家を取り上げる原田慶太楼はその伝道者となり得る存在だ。

グアルニエーリ

弦楽器と打楽器のための協奏曲 [日本初演]

4人のなかで唯一、スペイン語を母語としないカマルゴ・グアルニエーリ(1907～1993)は、ブラジルの作曲家。サンパウロで音楽を学び、30代になってからパリに留学してケックラン(1867～1950)に師事。アメリカでの活動を挟み、ブラジルに帰国してからはヴィラ・ローボス(1887～1959)の次世代を担う存在として、作曲家としてだけでなく管弦楽団の常任指揮者や音楽院の院長として活躍した。

1950年代まではフランス的な色彩感とブラジルの民族色を織り合わせた音楽を書いていたのだが、1960年代に思い悩みつつ少しずつ作風が変化。1970年に作曲された『ピアノ協奏曲第5番』では、ブラジルのサンバやショーロと12音による音列主義を

結びつけるまでになった。

1972年、ブラジル北東部のペルナンブーコ州を拠点とするアモリアル(紋章)室内管弦楽団からの委嘱で書かれたのが本作だ。作曲する上でモデルになっているのはおそらく後期のバルトーク(1881~1945)で、楽器編成は《弦楽器と打楽器とチェレスタのための音楽》(1936)、基本的な曲想や楽章構成は《弦楽のためのディヴェルティメント》(1939)、独奏楽器をもたない協奏曲として《管弦楽のための協奏曲》(1943)も参考にしている。

急—緩—急の3楽章制となっており、第1楽章「力強く」と第2楽章「郷愁」は続けて演奏される。第1楽章と第3楽章「おどけて」では、バルトークの《ディヴェルティメント》と同様にバロック時代の合奏協奏曲が意識されており、弦楽器の大編成と小編成の響きの違いが対比されていく。

作曲年代	1972年
初演	1976年、作曲家自身の指揮、サンパウロ大学交響楽団
楽器編成	ティンパニ1、小太鼓、弦楽

ピアソラ

バンドネオン協奏曲「アコンカグア」

4人のなかで唯一、ポピュラー音楽のミュージシャンとしても活躍したアストル・ピアソラ(1921~1992)は、アルゼンチンの作曲家であり、バンドネオン奏者だった。今年が生誕100周年となるため、普段は演奏される機会の少ないオーケストラ作品も、世界各地でプログラムに並ぶ。

4歳から家族で移住したニューヨークで、8歳の時にバンドネオンと出会う。16歳で帰国し、18歳からバンドネオン奏者としてブエノスアイレスの楽団で演奏活動をはじめた。しかしクラシック音楽やジャズにも魅せられていたピアソラは、19歳の頃にアルゼンチン滞在中のアルトゥール・ルビンシュタインのもとに押しかけ、自作のピアノ曲を披露した。ルビンシュタインが最初に紹介した作曲家からは弟子入りを断られてしまうが、代わりに紹介されたヒナステラに師事することになった。

タンゴの楽団で活動を続けつつ、《ピアノ・ソナタ》(1945)や《交響曲(シンフォニア・ブエノスアイレス)》(1951)まで作曲できるようになったピアソラは、交響曲が評価されたことで奨学金を手にし、パリに留学してナディア・ブーランジェ(1887~1979)に習うことが出来た。レッスンを受けていたのは1954年から1955年にかけての4か月程度だったが、この間にピアソラがピアノで弾くタンゴを聴いたブーランジェは、タンゴこそがピアソラの進むべき道であることを看破したというエピソードはあまりに有名だ。こうしてタンゴに

戻ったピアソラであったが、断続的にクラシック音楽の作曲も続けていく。

後期ピアソラの演奏活動の軸となった新タンゴ五重奏団を結成した1978年の次の年、ブエノスアイレス州立銀行からの委嘱により書かれたのが《バンドネオン協奏曲「アコンカグア」》である。副題はアンデス山脈に位置する南米最高峰の山の名前で、出版社がピアソラ作品の最高峰という意味で名付けた。管楽器を編成から省いたのはブーランクの《オルガン協奏曲》を意識してのこと。急—緩—急の3楽章制となっており、すべての楽章が3つのセクションによって構成されている。

作曲年代	1979年
初演	1979年12月15日、独奏アストル・ピアソラ、シモン・ブレッチ指揮
楽器編成	ティンパニ1、大太鼓、トライアングル、グイロ、ハープ1、ピアノ1、弦楽、バンドネオン・ソロ

ヒナステラ

協奏的変奏曲 作品23

4人のなかで唯一、フランスに留学・長期滞在しなかったアルベルト・ヒナステラ(1916～1983)は、アルゼンチンの作曲家。ブエノスアイレス音楽院を卒業した2年後の1940年からピアソラを教えるようになるも、1945年から1947年にかけては自身がアメリカ合衆国に留学してコーブランド(1900～1990)に師事している。再婚を機に1971年からは拠点をスイスに移し、当地で没した。

ヒナステラは自身の作風の変遷を3つの時期に分けており、初期(1934～1948)は「客観的民族主義」、中期(1948～1958)は「主観的民族主義」、後期(1958～1983)は「新表現主義」と自己分析している。この区分けでいえば、1953年に作曲されたこの管弦楽曲は中期に該当。伝統音楽から旋律の動き方やリズムを学ぶことで、既存の民謡を引用することなくアルゼンチンらしい音楽を生み出した。

本作は全部で12のセクションで構成されており、①まずはチェロ独奏とハープの伴奏(冒頭の分散和音は、ヒナステラが好んだギターの開放弦)によって主題が提示され、②続いて弦楽器群によって静かな間奏曲が挟まれた後、独奏楽器をフィーチャーした7つの変奏(③～⑨)が連なっていく。具体的には、③フルート独奏による愉快的な変奏、④クラリネット独奏によるスケルツォ風変奏、⑤ヴィオラ独奏による劇的な変奏、⑥オーボエとファゴット独奏によるカノンの変奏、⑦トランペットとトロンボーン独奏によるリズム的な変奏、⑧ヴァイオリン独奏による無窮動的な変奏、⑨ホルン独奏による牧歌的な変奏、といったように楽器のキャラクターを活かした変奏となっている。その後、⑩管楽器群による静かな間奏曲を挟み(もちろん②と対称をなす部分である)、⑪コントラバス独奏とハープの伴奏によって主題が再提示される。⑫ではオーケストラ全体が独奏扱い——つまりは管弦楽のための協奏曲のようになり、終曲にふさわしいロンド風の変奏が繰り広げられる。

作曲年代	1953年
初演	1953年6月2日、イーゴリ・マルケヴィチ指揮、音楽協会オーケストラ
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ1、クラリネット2、ファゴット1、ホルン2、トランペット1、トロンボーン1、ティンパニ1、ハープ1、弦楽

ファリャ

バレエ組曲「三角帽子」第1番

4人のなかで唯一、19世紀生まれであり、イタリア系の血筋ではなかったマヌエル・デ・ファリャ(1876～1946)は、スペインの作曲家。師匠ペドレル(1841～1922)からの影響で、スペインの伝統音楽を大胆に取り入れると共に、1907年から1914年にかけてパリに滞在してフランス音楽から多大な影響を受けた。晩年はフランコ政権を嫌ってアルゼンチンに亡命し、当地で没した。

第1次世界大戦中に作曲していたパントマイム劇作品をフランスから帰国後、ディアギレフの提案でバレエへと編成などを拡張したのが《三角帽子》である。組曲は2つ作られたが、どちらも物語の流れを維持し、刈り込んで短くしただけなので、すべての曲は続けて演奏される。

第1曲〈序奏〉は、本来のバレエでは威勢よくティンパニと金管楽器が鳴り響く部分だけが序奏抜いで、弦楽器が静かに刻みはじめるところから幕が上がり、午後の情景から物語がはじまる。第2曲〈粉ひき女の踊り〉は悪代官が横恋慕する女性が魅惑的に踊るファンダンゴ。フラメンコでも踊られるファンダンゴは、ボレロの原型とされる舞曲だ。

ひとしきり盛り上がったところで、無伴奏のファゴットによる第3曲〈お代官様〉となり、粉ひき女をナンパしようと短く声をかける。弦楽器による穏やかな旋律が印象的な第4曲〈粉ひき女〉では悪代官に優しく応対。しかし再びリズムミクな音楽が戻ってくる第5曲〈ぶどう〉では、果物で悪代官の機嫌をとりつつも、粉ひき女の夫が登場して恋敵をこらしめる。

作曲年代	1918～1919年
初演	[バレエ全曲] 1919年7月22日、エルネスト・アンセルメ指揮、ロシア・バレエ団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、シロフォン、サスペンデッド・シンバル、グロックンシュピール、ハープ1、ピアノ1、弦楽

小室敬幸 | Takayuki Komuro

音楽ライター。和洋女子大学非常勤講師など。

5/26 **水** 7:00pm5/27 **木** 7:00pm

サントリーホール

Suntory Hall

May

26(Wed) 7:00pm

27(Thu) 7:00pm

指揮

広上 淳一

Junichi Hirokami, conductor

ヴァイオリン

白井 圭

Kei Shirai, violin

コンサートマスター

篠崎 史紀

Fuminori Maro Shinozaki, concertmaster

チャイコフスキー(マカリスト編)
弦楽四重奏曲 第1番 作品11
—第2楽章「アンダンテ・カンタービレ」
(弦楽合奏版) [6']

サン・サーンス

ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調
作品61 [29']

- I アレグロ・ノン・トロッポ
II アンダンティーノ・クワジ・アレグレット
III モルト・モデラート・エ・マエストーン
—アレグロ・ノン・トロッポ

— 休憩(20分) —

尾高 惇忠

交響曲～時の彼方へ～ [35']

- I ゆっくりと、表情豊かに
II 穏やかに、表情豊かに
III とても生き生きと

Peter Ilich Tchaikovsky (1840–1893) /
Clark McAlister (1946–)
String Quartet No. 1 Op. 11
– 2nd Movement “Andante
cantabile” (String Orchestra Version)

Camille Saint-Saëns (1835–1921)
Violin Concerto No. 3 B Minor Op. 61

- I Allegro non troppo
II Andantino quasi allegretto
III Molto moderato e maestoso
– Allegro non troppo

— intermission (20 minutes) —

Atsutada Otaka (1944–2021)
Symphonie ~Au-delà du temps~

- I Lent expressif
II Calme expressif
III Assez Vif

Artist Profiles

広上 淳一 (指揮)



Chikashi Tomitori

尾高惇忠にピアノと作曲を師事、音楽、音楽をすることを学ぶ。1984年、第1回「キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」で優勝。以降フランス国立管弦楽団、ベルリン放送交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、モントリオール交響楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団などの世界の主要なオーケストラに客演。スウェーデンのノールショピング交響楽団首席指揮者、オランダのリンブルク交響楽団首席指揮者、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、アメリカのコロンバス交響楽団音楽監督を歴任した。オペラでも活躍し、グルック、モーツァルトからヴェルディ、プッチーニ、さらにゴリホフ《アイナダマル》の日本初演まで、幅広いレパートリーで数々のプロダクションを成功に導いている。2008年、京都市交響楽団常任指揮者に就任し、2014年より同団ミュージック・アドヴァイザーを兼任。2020年4月からは常任指揮者兼芸術顧問の地位にある。2017年4月からは札幌交響楽団友情客演指揮者も務める。また、東京音楽大学指揮科教授として後進の指導にも力を注ぐ。N響に初めて登場したのは1985年のこと。以来定期的に共演を重ね、2020年9月には、R. シュトラウス《町人貴族》で精妙かつ活気あふれるアンサンブルをN響から引き出した。2016年、有馬賞受賞。

白井 圭 (ヴァイオリン)



1983年、トリニダードトバゴ生まれ。3歳でヴァイオリンを始める。東京藝術大学附属高校、同大学を卒業。2007年、ウィーン国立音楽演劇大学に留学。ミュンヘン国際音楽コンクール第2位および聴衆賞(2009)、ハイドン国際室内楽コンクール第1位および聴衆賞(2015)、日本音楽コンクール第2位および増沢賞(2001)など受賞歴多数。ソリストとしてチェコ・フィルハーモニー管弦楽団をはじめ国内外のオーケストラと共演を重ね、ウィーン楽友協会、ロンドンのウィグモア・ホールなどの著名なホールで演奏。2011年9月より半年間、ウィーン国立歌劇場管弦楽団およびウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の契約団員を務め、世界的な指揮者のもとで経験を積んだ。チェコ・フィルやドイツ各地の放送交響楽団にゲスト・コンサートマスターとして招かれている。2018年まで約5年間、神戸市室内合奏団(現神戸市室内管弦楽団)のコンサートマスターを務め、2020年4月にNHK交響楽団のゲスト・コンサートマスターに就任。トリオ・アコード、シュテファン・ツヴァイク・トリオ、ルートヴィヒ・チェンバー・プレイヤーズ・シュトゥットガルト各メンバー。

Program Notes | 野平一郎

本日演奏される3作品に直接のつながりはないものの、プログラムの流れは自然でよく考えられている。チャイコフスキーの弦楽による導入に続き、まるで器楽によるオペラとも言えるサン・サーンスのヴァイオリン協奏曲。白井圭の柔軟な独奏が、このロマンティックな作品に対してどのような新しい像を打ち立てるのか。そして指揮の広上が師と仰ぐ尾高惇忠。現代フランス音楽の影響が色濃いその響きは、サン・サーンスからさぞ自然につながって聴こえることだろう。

チャイコフスキー(マカリスト編)

弦楽四重奏曲 第1番 作品11 — 第2楽章「アンダンテ・カンタービレ」(弦楽合奏版)

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840~1893)は生涯に3曲の弦楽四重奏曲を作曲しているが、そのどれもが30歳代に書かれている。彼の室内楽は、この編成以外にも弦楽六重奏曲やピアノ三重奏曲などがあるが、いずれもその音楽の劇的な性格から室内楽の範疇を超越したところがある。特にこの《弦楽四重奏曲第1番》の第2楽章は、弦楽合奏によって単独で取り上げられることが多い。今回はアメリカの作曲家で編曲家としても名高いクラーク・マカリスト(1946~)による弦楽合奏版で演奏される。冒頭、第1ヴァイオリンが奏する美しい旋律は、ウクライナ民謡に由来するのではないかと言われてきた。旋法的で、2拍子と3拍子が混合する。作曲家と同じ建物に住むある画家が口笛で吹いた旋律を使ったというエピソードも伝えられている。全体は3部形式で、その中間部の音楽はより流動的で低弦のピチカートによるオスティナートに支えられている。冒頭主題が、第1ヴァイオリンからヴィオラまでのユニゾンで再現され、さらに音域を拡大して歌われたのち、中間部の主題によるコーダで静寂の中に消えて行く。

作曲年代	[原曲]1871年2月
初演	1871年3月28日(ユリウス暦同月16日)、ロシア音楽協会弦楽四重奏団、モスクワ貴族会館小ホール
楽器編成	弦楽

サン・サーンス

ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61

カミーユ・サン・サーンス(1835~1921)は、フランス・ロマン派の大作曲家であり、著名なピアニスト、オルガニストでもある。12ものオペラをはじめ、5曲の交響曲やさまざま

な楽器のための協奏曲も数多く作曲した。また世界で初めての映画音楽の作曲家としても知られている。彼が創設した「国民音楽協会」が、オペラの世界に埋没していたフランスの作曲界に、どれだけ器楽の世界を隆盛させ、彼に続く世代に影響を与えたかははかり知れない。そして哲学的な著作をはじめ、戯曲や詩も書くという多芸多才な、フランスの音楽史にとって大変重要な位置を占める人物だった。この有名な協奏曲を初演した名手サラサーテのために、《序奏とロンド・カプリチオーソ》や《ハバネラ》、そして《ヴァイオリン協奏曲第1番》など、サン・サーンスは自らのヴァイオリンと管弦楽のための作品の大部分を作曲している。さらに、2人はピアノとヴァイオリンでしばしば共演もおこなった間柄だった。

第1楽章冒頭で弦のトレモロ上に出現するヴァイオリン・ソロの情熱的な出だし、第2楽章のしなやかなバルカローレ(6/8拍子で書かれたヴェニスのごンドラに由来する舟歌)、カデンツァで意表をついて始まり、壮大なコーラルで終わる第3楽章など、伝統的な3楽章構成でありながら一瞬も聴く者を飽きさせない。構成の卓抜さ、ヴァイオリン・パートの見事な書式、オーケストラの音色、そしてあらゆる瞬間が歌の魅力に溢れていること等々、サン・サーンスの恐らくは最良の作品のひとつであるだけでなく、古今東西のヴァイオリン協奏曲の中でも最も魅力的な作品のひとつであろう。

作曲年代	1880年
初演	1880年10月15日、ハンブルク、パブロ・デ・サラサーテのヴァイオリン独奏
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

尾高惇忠

交響曲～時の彼方へ～

作曲者の尾高惇忠(1944～2021)は、東京藝術大学、そしてパリ国立高等音楽院に学び、日本としては珍しいまるでバッハのような音楽家の一大ファミリー、尾高家の出身。父親は尾高尚忠(作曲家・指揮者)、弟が尾高忠明(指揮者)、また母親は尾高節子(ピアニスト)、従姉に倉田澄子(チェリスト)がいる。残念なことに2021年2月に亡くなられたが、今年は3月に《チェロ協奏曲》が初演されたほか、6月には《ヴァイオリン協奏曲》の初演が予定されている。この《交響曲～時の彼方へ～》は仙台フィルハーモニー管弦楽团委嘱作品として作曲され、第60回尾高賞を受賞した。初演のコンサートは尾高尚忠の生誕100年・没後60年を記念するものであった。

尾高の音楽は、常に自由奔放な大らかさと、エクリチュール(和声や対位法などの音楽書法)の緻密さが同居し、また情熱的で、洗練と言うよりは良い意味で「粗野な」ところも特

徴的である。「シンフォニスト」である彼の作品群の中でも、特にオーケストラの作品において最もその音楽の素晴らしさが現れるように思う。本作は、これまで《イマージュ》、《肖像》といった作品で築いてきた彼の管弦楽書法の集大成である。和声の響きや管弦楽法、構成感の巧みさは、フランス留学時の師のひとりであるアンリ・デュティユー（1916～2013）に深く影響されながらも、独自の審美眼に裏打ちされたものである。

全体は伝統的な3楽章形式を基調にしているが、循環形式を用いる多くのパッセージが、複雑で独特に入り組んだものである。第1楽章は2つの急速な主要部分を序奏、中間部、そして後奏が挟み込む、緩急緩急緩の5部構成。第2楽章はさまざまなエピソードを持つ緩徐楽章。第3楽章は急速な楽章で、低弦や打楽器を含むいくつかの特徴的なパッセージが次々と現れた後、尾高特有のフガートの展開となる。このブリランテ（華麗に）と記されたフガートは既出の主題と累積^{るいせき}することで、クライマックスを築いていく。尾高が、エクリチュールの本場フランスで培った対位法^{つちか}の粋を聴くことができる。第1楽章のゆっくりとした部分が再現、作品の最後で鐘が8回ピアニッシモで神秘的に鳴らされることで、実はこの作品全体が初演の年に起こった東日本大震災への「祈り」（作曲者の言葉によれば「現代社会への不安」）であり、各場面がさまざまな人間の営みを象徴したものであったことが明らかとなる。

作曲年代	2011年
初演	2011年9月23日、尾高忠明（指揮）、仙台フィルハーモニー管弦楽団、仙台市青年文化センター・コンサートホール
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ3、クラリネット3、ファゴット3（コントラファゴット1）、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、タムタム、チューブラー・ベル、トムトム、ウッド・ブロック、ボンゴ、グロックンシュピール、シロフォン、ヴィブラフォン、ハープ1、チェレスタ1、弦楽

野平一郎 | Ichiro Nodaira

作曲家、ピアニスト。東京音楽大学教授、静岡音楽館 AOI 芸術監督。2012年紫綬褒章、2018年日本芸術院賞受賞。

N響百年史

第十九回 一日ソ基本条約と日露交驩交響管絃楽演奏会 片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK RFM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。関東大震災の混乱の中、日ソ国交樹立をもくろむソ連。流れに乗ってハルビンのロシア人音楽家を招聘し、本格的なオーケストラ公演を開催したい山田耕筰。思惑は交錯します。

レーニン号事件、虎ノ門事件 ——水を差された日ソ国交樹立交渉

レーニン号というソヴィエト連邦の貨客船が関東大震災直後の東京湾に姿を現した。横浜港に入港したのは震災の11日後、1923(大正12)年9月12日のことである。救援物資を満載していた。でも、やってくる経緯が不穏といえれば不穏だった。ソ連は日本の震災を知るとただちに、日本被災労働者救助委員会を組織し、さまざまな援助を日本政府に対して申し出た。しかし、まだ日ソの国交樹立交渉は道半ば。震災の渦中であってドタバタしっぱなしの日本政府が返事をしないうちに、レーニン号は強引にやってきてしまった。

しかも、船長や船員の言動があまりに過激だった。救援物資は日本の労働者階級に限り渡すとか、震災は革命の好機だとか述べた。ちょうど、朝鮮人が組織的暴動を起こしているという事実無根のデマが日本全国に広まっていたときだ。レーニン号の真の目的は朝鮮人や日本の社会主義者の援助ではあるまいか。レーニン号にはソ連の諜報員^{ちようほういん}や破壊活動員が乗船していて、密かに上陸を果たしてしまい、東京ですぐに大事が発生するだろうとの流言も新たに広まった。無政府社会主義者の大杉栄^{あまかす}が甘粕正彦憲兵大尉に殺害される事件は9月16日に起きたけれど、そのとき東京は革命前夜だから予防措置を講ずる必要があると、軍や警察の一部は本気で勘違いしていた。レーニン号が救援物資をひとつも降ろせずに追い返されたのは、入港からわずか2日後の9月14日のことだった。

国交樹立はもうすぐだろう。経済効果も大きいただろう。そんな期待感はレーニン号の事件によって水を差された。そもそも日ソ間には難

問が山積みである。日本が革命に干渉したシベリア出兵のおとしまをどうつけるのか、アムール河口のニコラエフスクでソ連側が引き起こした日本人大量 虐殺 事件の責任をソ連がどうとるのか、ソ連領北樺太に居座り続けている日本軍はいつ引き揚げるのか。どれも解決への成案を得られぬうちに、震災に伴うレーニン号の事件が加わった。山田耕筰がハルビンからロシア人ばかりの東支鉄道交響楽団を招聘しようとしたのも、国交樹立と友好親善促進の流れに乗るつもりであったから、だいぶん様子が違ってきた。震災の混乱が落ち着けばすぐ公演計画が仕切り直せるという話でもなくなったかのように見えた。

しかし、ソ連は対日外交にあくまでも積極的だった。レーニン号が追い払われても怒るわけでもない。後藤新平らと交渉したヨッフエが感冒の後遺症のせいで退いた後を受け、北京駐在のソ連極東全権代表になったレフ・カラハンは、レーニン号の事件があつて間もない9月22日に、新たな交渉を始めたい旨を、日本側に通告してきた。だが、日本はそれどころではない。震災後の国内の混乱をうまく収められるか否かの瀬戸際のところ。震災直後に山本 権兵衛 を首班とする新内閣が成立したばかりでもある。面倒な外交をする余裕がない。おまけにソ連のことを信用しにくもなっている。山本内閣は日ソ交渉に消極的であった。そうしているうち12月27日に、大杉栄殺害に 怨みの念を抱いた社会主義者、難波大助による、皇太子で摂政の裕仁親王(のちの昭和天皇)の暗殺未遂事件が白昼堂々、東京の虎ノ門で発生し、山本内閣は警備不行き届きで総辞職に追い込まれる。虎ノ門事件と呼ばれる。震災の混乱が負の連鎖を生んだ。後を受けた清浦奎吾内閣は、社会主義・共産主義には

ますます過敏にならざるを得ず、日ソ交渉再開に踏み出そうとしなかった。

そうしたらソ連はしごく乱暴な手段に訴えた。沿海州のウラジオストクでは帝政ロシア時代からの日本総領事館が相変わらず機能していた。日ソ間には国交がないのだから総領事館があるのは奇妙なのだが、1922(大正11)年までウラジオストクの領域はソ連に未編入だったから、総領事館も居座り続け、ソ連も認めていた。ところがソ連は1924(大正13)年2月、総領事館を認めぬと言い出し、副領事らをスパイ容疑で拘束した。早く交渉を再開せよという、手荒なメッセージである。

アメリカを牽制せよ ——一致した日ソの思惑

なぜソ連は慌てていたのか。ロシア革命が 勃発したのは1917(大正6)年。以来、日本もアメリカも西欧諸国も、革命の連鎖を恐れ、ソ連封じ込めを基本政策とした。革命の進展を阻害すべく、日米英仏伊などは軍事的にも干渉した。ソ連はそうやって包囲されても、国内経済を回すだけでとりあえず食べていける、広い国土と生産力を有してはいた。だが、鎖国状態では成長は望めない。諸国の封じ込め政策を切り崩し、外側への突破口を開き、外資を呼び込んで発展をはかるのは、外交上の最大課題といってもよかった。しかも、そのスピードを早める必要が1924(大正13)年1月に生じた。同月21日、革命の英雄レーニンが死去した。ソ連が国際的閉塞状況に耐えられてきたのは、英雄レーニンの求心力あってこそ。それがなくなれば若い人工国家はたちまち解体しかねない。ソ連は世界の中で生きていける! 孤立していない! その証拠をひとつでも多く、

一刻でも早く内外に示さなければ、国家の存続が危うくなっていく。

日本にも似た事情はあった。明治以来の日本の国際的威勢を支えてきた床柱のようなものは、長らく日英同盟であったろう。それが関東大震災の起きる前月の8月に失効した。日本は西洋の中に有力な同盟国を持たなくなった。かわりに日本が入った大きな国際関係の枠組みといえば、1921(大正10)年から翌年にかけて結ばれた四か国条約や九か国条約である。どちらの条約も主役はアメリカであった。日本は、この2つの条約に枷^{かせ}をはめられることで、太平洋でも中国大陸でも、権益の拡大を阻止される格好になった。ソ連は怖い。社会主義や共産主義は、天皇と資本主義を奉ずる日本にとって脅威である。だが、ソ連とうまく付き合えば、ソ連は中国にも接近しつつあるから、日中ソの連携も可能になるかもしれない。日本の中国進出^{けんせい}を何とか邪魔するアメリカを、上手に牽制^{けんせい}できるかもしれない。つまり、三国の大同盟で、太平洋から寄せるアメリカの高波を鎮めようという大戦略が、大震災後の日本の外交としてあり得た。そこにウラジオストクでの日本人拘束だ。清浦内閣は日ソ交渉の本格的再開に踏み切る。1924年5月、日ソの協議が北京で始まった。

「ソ連の文化工作員」、 モジューヒンの来日公演

この流れに合わせるかのように、7月、バリトン歌手のアレクサンドル・モジューヒンが来日した。帝政ロシアの映画スターで、革命後はフランスに亡命したイワン・モジューヒンの兄である。弟のように逃げださず、ソ連オペラ界のスターのひとりに収まり、1920年代にはたびたび

欧米で公演していた。日本にはハルビンを経てやってきた。ソ連の歌手を日本が受け入れるのは、日ソ交渉の進展している証であり、日本でモジューヒンの引き受け手となったのは山田耕筰である。山田は報知新聞社などと提携して、全国各地でモジューヒンの独唱会を催した。チャイコフスキーやリムスキー・コルサコフのオペラのアリアに、ムソルグスキーやラフマニノフやグラズノフの歌曲^{ほうじょう}。豊饒なロシアン・ヴォイスが日本の聴衆を魅了した。8月21日の東京での独唱会では山田の歌曲も披露した。

モジューヒンはもちろん名歌手である。でも有名な弟は反革命派だ。それでも世界中を演奏旅行で回れている。つまり彼は、やや大げさな言い方をすると、ソ連の中央に信頼された文化工作員なのだ。そんなモジューヒンが山田と仲良くする。山田が、1923(大正12)年にハルビンの白系ロシア人のオーケストラを招聘する寸前まで行きながら、大震災で挫折を余儀なくされたことをソ連当局はよくわかっている。日本では6月に清浦奎吾から加藤高明へとまた内閣が代わっていたが、北京での日ソ交渉は前向きに推移していた。もちろん山田は、ロシア人の交響楽団を来日させて「本物の交響楽」を日本の聴衆に味わわせ、その感動を呼び水に、日本のプロ・オーケストラ運動を前進させる夢に相変わらず取り憑^つかれている。その実現のタイミングはやはり日ソ国交樹立の直後だろう。

ソ連はどうやらこの山田の構想に関心を寄せた。日ソ国交樹立の祝いとして日本でコンサートをぶち上げるなら、その交響楽団のメンバーはソ連から中国に亡命した格好になっているハルビンの白系ロシア人だけでは物足りない、当然ソ連は考える。モスクワやレニングラードのプレイヤーが入らなければ！ソ連の文化当局はその際に便宜を図る用意があり、

モジュールを窓口になれば、革命政府で文化行政を担当する教育人民委員のルナチャルスキーの援助を求めることができると、この頃からモジュールのルートを使って山田に囁いていたのだろう。

日ソ交渉はいくつかの難題でどうしても折り合えず、もしかして躓くかにも見えた。が、ソ連はどうしてもレーニンの没後1年の1925(大正14)年1月21日までに国交樹立の合意に至りたかった。内外にソ連外交の成功を喧伝したかった。1月20日の交渉で唐突に、折れられるところはみんな折れ、同日のうちに日ソ基本条約が電撃的に調印された。21日に合わせたソ連側の演出を日本側も呑みこんでいたのだろう。翌日のレーニンの命日には、世界に日ソ国交樹立のニュースが駆け巡り、ソ連政府は、今後急速に日中ソ三国の連携が進み、アメリカを牽制する大きな力が生まれると熱烈にアピールした。その思いは日本も同じ。日ソ両国は、アメリカばかりが大きな顔をする大戦後の世界情勢に揺さぶりを掛けたかった。そこに合致点があった。

「日露交驩交響管絃楽演奏会」、ついに実現す

こうして日本との国交樹立に成功したソ連は、ただちに親善気分を高めようと動く。基本条約には、ソ連が日本に対しマルクス・レーニン主義の思想宣伝をしないという趣旨の一項が入る。文学や演劇や美術では思想が絡みがちで角が立つ。無難なのは音楽だ。

かくて、早くも4月に実現したのが、「日露交驩(交歓)交響管絃楽演奏会」である。ハルビ

ン在住者とソ連からの招聘者、合わせて30人以上のロシア人演奏家が来日し、約40人の日本人プレイヤーと臨時のオーケストラを組み、山田耕筈と近衛秀麿の指揮で全国を巡演する。山田の熱意や、ソ連の影響力の強まるハルビンからもっと遠くへ逃げ直したい白系ロシア人音楽家たちの生き残り願望の賜物には違いない。だが、それだけではこの大事業は実現しない。背景にはソ連の国策とそれに共鳴する日本の国家的意図があったと考えるべきだろう。日ソ基本条約のおかげで、モスクワやレニングラードとハルビンと東京の演奏家が一緒に楽団を組めた！これすなわち日中ソ三国による新しい枠組みの提示なのだ。山田耕筈が公演の宣伝のために5月14日の神戸新聞に寄せた文章を引く。

「(ソ連からの客演者を含む多数のロシア人音楽家を)短期間に招聘することが出来たのは勿論日露両国官憲の深い諒解と好意に依るところ多いが、彼地の藝術界に於ける最高権威者たる文相ルナチャルスキー氏及び全露藝術家連盟(ラピス)の非常なる盡力が與つて力あることをここに明記する」。ロシア革命の指導者のひとり、ルナチャルスキーの名がここに登場するのは、山田耕筈得意のハッターとばかりはいえまい。歴史の深層がチラリと浮かび上がっているのであろう。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』ほか著書多数。

次回予告

1924(大正13)年、欧州での武者修行を終えた近衛秀麿が帰国します。「日露交驩交響管絃楽演奏会」の実現を前に、師・山田耕筈との関係は――。

ファビオ・ルイージ NHK交響楽団首席指揮者に就任 ——2022-23シーズンから

NHK交響楽団は、2022年9月より欧米を中心に活躍するファビオ・ルイージ氏を、首席指揮者に迎えることになりました。

古典から現代までの幅広いレパートリーを持つルイージ氏は、現在、チューリヒ歌劇場音楽総監督(2020-21シーズンに

て退任予定)、デンマーク国立交響楽団首席指揮者、ダラス交響楽団音楽監督、フィラデルフィア管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団など、世界一流のオーケストラに客演し続けています。またメトロポリタン歌劇場やドレスデン国立歌劇場など数々のオペラハウスでの経験は、オーケストラのアンサンブルの細やかな音楽作りにも生かされ、多くの人々を魅了しています。



©Thomas Rittenhaus

ルイージ氏が、初めてNHK交響楽団のステージに立ったのは2001年7月のこと。ブルックナー《交響曲第7番》で、鮮やかな指揮の手腕と開放的な感性を披露して聴衆の心を掴み、明晰でセンスにあふれた演奏を強く印象づけました。

ルイージ氏との契約は2022年9月から3年間。また、就任に先立ち2021年12月の「ベートーヴェン《第9》演奏会」を指揮することも予定されており、重厚で情熱的な部分と繊細でナイーブな一面を併せ持つ独自の音楽性が、N響の新たな魅力を引き出すものと期待されます。テレビ、ラジオを通して、多くのファンのみなさまにルイージ氏とN響が創る「新しい音楽」を感じとっていただければ幸いです。

Information

訃報 当団元トロンボーン奏者（1983年7月入団）で団友の秋山鴻市（あきやま こういち）氏が2021年3月18日に逝去されました。享年75。謹んでご冥福をお祈りいたします。

公演情報

チケット料金、前売所等については、
N響ホームページの各公演ページをご覧ください。

NHK交響楽団 6月公演

サントリーホール | 発売中

2021年6月5日(土) 6:00pm | 6日(日) 2:00pm

指揮：井上道義

シベリウス／交響曲 第7番 ハ長調 作品105

ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

※NHKホール改修工事のためサントリーホールに会場を移して行います。

※2日目の開演時刻は午後2時となります。

東京芸術劇場 コンサートホール | 発売中

2021年6月11日(金) 6:30pm | 12日(土) 2:00pm

指揮：下野竜也

フィンジ／前奏曲 作品25
ブリテン／シンフォニア・ダ・レクイエム 作品20
ブルックナー／交響曲 第0番 二短調

サントリーホール

★発売日・開演時刻はN響ホームページでご確認ください。

2021年6月16日(水) 夜* | 17日(木) 夜*

指揮：パーヴォ・ヤルヴィ

ヘルト／スズマ(弦楽合奏版)

ニルセン／交響曲 第4番 作品29「不滅」

ほか

Music Tomorrow 2021 | 発売中

東京オペラシティ コンサートホール

2021年6月22日(火) 7:00pm ※尾高賞授賞式・プレトークは6:30pm～

指揮：杉山洋一 | ピアノ：吉川隆弘

西村 朗／華開世界一オーケストラのための(2020) [N響委嘱作品／世界初演]

間宮芳生／ピアノ協奏曲 第2番(1970) [第19回尾高賞受賞作品]

細川俊夫／オーケストラのための「渦」(2019) [第68回尾高賞受賞作品]

夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート～オーケストラ・世界音楽選手権～ | 発売中

東京芸術劇場 コンサートホール

2021年8月1日(日) 3:30pm

指揮：原田慶太楼 | ナビゲーター：篠原ともえ

アンダソン／フィドル・ファドル

サン・サーンス／組曲「動物の謝肉祭」—“かめ”

ヨハン・シュトラウスⅡ世／常動曲

チャイコフスキー／組曲「くるみ割り人形」—“トレパーク”

ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」—“カッチェイ王の魔の踊り” ほか

WEBチケットN響
(手数料無料)

チケットのご予約は、スマートフォンやPCから、
座席を選んで簡単にチケットが確保できる
「WEBチケットN響」が便利です。



お問い合わせ：
N響ガイド TEL 03-5793-8161
※営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください。

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 吉田淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取 藤原弘治
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
ユナイテッド航空会社	アジア太平洋・大西洋地区営業担当副社長 Marcel Fuchs
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 平子裕志
株式会社 松尾楽器商会	代表取締役 松尾治樹
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介

賛助会員

・ 常陸宮	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役会長 川崎靖之
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ SCSK(株) 代表取締役社長執行役員 最高執行責任者 谷原 徹
・ (株)アイシン 取締役社長 伊勢清貴	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 小野木昌史
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 伊東国際特許事務所 会長 伊東忠彦	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長 小泉公二
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長 浅田剛夫	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 松原洋一
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK エデュケーションル 代表取締役社長 熊埜御堂朋子
・ 朝日信用金庫 理事長 橋本 宏	・ (株)ウイングツァー 代表取締役 福田健二	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長 山本 真
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 高波博之	・ AGC(株) 代表取締役兼社長執行役員 平井良典	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 安齋尚志
・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史		

- ・(学)NHK学園
理事長 | 浜田泰人
- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役社長 | 荒木裕志
- ・(一財)NHK サービスセンター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 森永公紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 大橋一三
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 谷弘聡史
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 風谷英隆
- ・(一財)NHK放送研修センター
理事長 | 原田達也
- ・(株)エヌオーイー
代表取締役社長 | 橋本肇
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファンリティアーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
大田勝幸
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・沖電気工業(株)
代表取締役執行役員 | 鎌上信也
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 星野晃司
- ・花王(株)
代表取締役 社長執行役員
長谷部佳宏
- ・カシオ計算機(株)
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 押味至一
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役社長 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 社長執行役員
仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
取締役名譽会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 三宅国紀
- ・(株)共同通信会館
代表取締役 | 牧野和宏
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 山田晴彦
- ・グラフエンプラットフォーム(株)
代表取締役 | 長谷川正治
- ・京王電鉄(株)
代表取締役 | 紅村 康
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 | 小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 原田一之
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)サウンド&ミュージック クリエーション
代表取締役 | 河合由里子
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・(株)サコ コンサルタント
取締役 総務部長 | 大森 保
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役社長 | 富田 稔
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)ジュビターテレコム
代表取締役社長 | 石川雄三
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役社長 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・鈴木美代
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・住友電設(株)
取締役社長 | 坂崎全男
- ・セイコーホールディングス(株)
代表取締役会長兼グループ CEO
服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純

- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役 | 小谷野宗靖
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 西澤敬二
- ・第一三共(株)
代表取締役会長 | 中山譲治
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・高砂熟学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田原 昇
- ・中央日本土地建物(株)
代表取締役社長 | 平松哲郎
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 五十嵐 博
- ・(株)TOKAIホールディングス
代表取締役社長 | 鶴田勝彦
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫
- ・(株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 八木橋孝男
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・東邦音楽大学
理事長・学長 | 三室戸東光
- ・桐朋学園大学
学長 | 梅津時比古
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 濱田矩男
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 中島信也
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 足立直樹
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・内外施設工業(株)
取締役会長 | 林 正道
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 今泉泰彦
- ・日本カイン(株)
代表取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 城本 勝
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長兼CEO
森田隆之
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役社長 | 辻 裕一
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 北爪秀樹
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長兼COO | 柴尾雅春
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック(株)
代表取締役社長 | 津賀一宏
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 井上福造
- ・(株)日立製作所
執行役社長 | 東原敏昭
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博予
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 井上樹彦
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・(株)松尾楽器商会
代表取締役 | 松尾治樹
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
取締役社長 | 舩曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 高島 誠
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 垣内威彦
- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 杉山武史
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(学)武蔵野音楽学園
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
取締役社長 | 三井田 健

- ・(株)目の眼
代表 | 櫻井 恵
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 押木 正人
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 藤沼大輔
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆
- ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員
坂主智弘
- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL: 03-5793-8120

NHK交響楽団

首席指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：白井圭

第1ヴァイオリン

青木 調
字根京子
大鹿由希
倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
○森田昌弘
○山岸 努
□横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

○大林修子
○大宮臨太郎
木全利行
齋藤麻衣子
嶋田慶子
○白井 篤
鈴木弘一
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
宮里親弘

矢津将也
山田慶一
横山俊朗
米田有花

ヴィオラ

◎佐々木 亮
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
三戸正秀
中 実穂
○西山健一
○藤村俊介
宮坂拓志
村井 将
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
☆市川雅典
☆西山真二
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
佐川裕昭
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
菅原 潤
中村淳二

オーボエ

◎青山聖樹
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
◎福川伸陽
石山直城
勝俣 泰
木川博史
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
栗田雅勝
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
深畑一徳

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

NHK交響楽団定期公演 2021-22シーズンプログラム (2021年9月～2022年6月)

首席指揮者バーク・ヤルヴィ、桂冠名誉指揮者プロムシュテットをはじめ、ルイージ、ソヒエフ、エツェンバッハ、ヤノフスキなど、世界のクラシック音楽界をリードする指揮者たちが次々登場し、多彩なプログラムを披露します。また、レヴィット(ピアノ)、カヴァコス、ハーン(ヴァイオリン)、ミユラー・シヨット(チェロ)など、最高峰のソリストたちも集結します。

※2021年4月現在の情報です。今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

リニューアルのご案内

新シーズンでは、N響ならではの豪華な出演者や充実した演目は従来通りのままに、リニューアルします。

池袋

Aプログラム (東京芸術劇場)

- 会場&シリーズ名変更：NHKホールの改修工事に伴い、東京芸術劇場に会場を変更し「池袋Aプログラム」として開催します(2022年6月まで)。
- 2日目(日曜日)の開演時刻の変更：2:00pmに変更します。
- 1回券料金の変更：1回券の金額の見直しを行いました。公演ごとに価格は異なります。

Bプログラム (サントリーホール)

- 開催回数の変更：サントリーホールの改修工事に伴い、2022年4月公演の開催を休止します。1日目、2日目ともに通常9回ずつの開催を、8回ずつに変更します。
- 1回券料金の変更：1回券の金額の見直しを行いました。公演ごとに価格は異なります。
- ユースチケットの拡大：Bプログラムの1回券にも対象を拡大。25歳以下の方であればお得にチケットをお求めいただけます。

池袋

Cプログラム (東京芸術劇場)

- 会場&シリーズ名変更：NHKホールの改修工事に伴い、前シーズンに引き続き東京芸術劇場に会場を変更し「池袋Cプログラム」として開催します(2022年6月まで)。
- 全公演「休憩なし&60～80分程度の公演」に：これまで休憩を含め2時間程度だった公演を、コンパクトな「休憩なし&60～80分程度」に変更。
- 1回券、定期会員券の料金をよりリーズナブルに：1回券の金額の見直しを行いました。S席7,400円～D席3,200円(一般料金、税込)と、よりリーズナブルにお楽しみいただけます。これに合わせて定期会員券の価格も見直しました。
- 1日目(金曜日)の開演時刻の変更：公演のコンパクト化に伴い30分繰り下げ、7:30pmに変更します。2日目(土曜日)は従来通り2:00pm開演です。
- 「開演前の室内楽」の開催：N響メンバーによる「開演前の室内楽」を池袋Cプログラム限定で行います。1日目は6:45pm、2日目は1:15pmよりホールの舞台上で開催します。ご自身の座席で約15分のミニコンサートをお楽しみください。

A・B・Cプログラム共通

- お得なセレクト券
「WEBセレクト3+」の導入
Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズンで行われる9つの定期公演のうち、1回券を1度に3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種も自由に選びいただけます(WEBチケットN響のみで販売)。

詳細は下のQRコードから



N響ホームページ
(ニュース:N響定期リニューアル)

休止となった2020-21シーズン定期会員券の継続手続きをされたお客様には、「会員券更新のご案内」を5月下旬にお送りする予定です。

PROGRAM

池袋

A

東京芸術劇場 コンサートホール

[土] 6:00pm

[日] 2:00pm

※ NHKホールの改修工事に伴い、定期公演Aプログラムは東京芸術劇場(池袋)に会場を移し、「池袋Aプログラム」として行います。
 ※ 2日目の開演時刻は1時間繰り上げ、2:00pmとさせていただきます(1日目は今まで通り6:00pm開演)。
 ※ 1回券料金が公演ごとに異なります。

2021

September

09

第1938回

9/25 [土] 6:00pm

9/26 [日] 2:00pm

充実一途のベテラン
沼尻竜典とマーラーに鋭く切り込む

モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」

指揮：沼尻竜典
クラリネット：アンドレアス・オッテンザマー

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2021

October

10

第1939回

10/16 [土] 6:00pm

10/17 [日] 2:00pm

第1次世界大戦の傷跡が滲むニルセンの問題作を
プロムシュテットが振る

ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77
ニルセン／交響曲 第5番 作品50

指揮：ヘルベルト・プロムシュテット
ヴァイオリン：レオニダス・カヴァコス

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2021

November

11

第1942回

11/13 [土] 6:00pm

11/14 [日] 2:00pm

音楽の都、ウィーンの伝統の結晶
フランツ・シュミットの《交響曲第2番》

ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲
リスト／ピアノ協奏曲 第2番 イ長調
フランツ・シュミット／交響曲 第2番 変ホ長調

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ピアノ：アレクサンドロ・タヴェルナ

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2021

December

12

第1945回

12/4 [土] 6:00pm

12/5 [日] 2:00pm

男女の心の綾を精妙に描く
シェーンベルク初期の傑作を聴く

ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲 作品56a
R. シュトラウス／4つの最後の歌
シェーンベルク／浄められた夜 作品4

指揮：山田和樹
ソプラノ：佐々木典子

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2022

01

January

第1948回

1/15 土 6:00pm

1/16 日 2:00pm

原田慶太楼と反田恭平が捧げる
ポーランド、パリへのオマージュ

ショパン(グラスノフ編)／軍隊ポロネーズ Ⅰ長調 (管弦楽版)
ショパン(ストラヴィンスキー編)／夜想曲 変イ長調 (管弦楽版)
パデレフスキ／ポーランド幻想曲 作品19*

ストラヴィンスキー／バレエ音楽「火の鳥」(1910年版)

指揮：原田慶太楼 ピアノ：反田恭平*

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2022

02

February

第1951回

2/5 土 6:00pm

2/6 日 2:00pm

バーヴォ・ヤルヴィ、レヴィットと究める
ドイツロマン主義の精髓

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83

シューマン／交響曲 第2番 ハ長調 作品61

指揮：バーヴォ・ヤルヴィ

ピアノ：イゴール・レヴィット

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2022

04

April

第1954回

4/9 土 6:00pm

4/10 日 2:00pm

ドイツ最高峰の巨匠と紡ぐ
ベートーヴェンの「舞踏交響曲」

ドヴォルザーク／序曲「謝肉祭」作品92

モーツァルト／フルート協奏曲 第1番 ト長調 K. 313

ベートーヴェン／交響曲 第7番 Ⅰ長調 作品92

指揮：クリストフ・エッセンバッハ

フルート：スタティス・カラバノス

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2022

05

May

第1956回

5/14 土 6:00pm

5/15 日 2:00pm

こだわりの名匠と一から再構築する
シューベルトの巨大な音楽遺産

シューマン／ヴァイオリン協奏曲 二短調

シューベルト／交響曲 第8番 ハ長調 D. 944「ザ・グレート」

指揮：マレク・ヤノフスキ

ヴァイオリン：アリョーナ・バーエフ

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2022

06

June

第1959回

6/11 土 6:00pm

6/12 日 2:00pm

フランス音楽と文学の幸せなマリージュ
その耽美的な世界に身を委ねる

デュカス／バレエ音楽「ペリ」(ファンファーレつき)

ラヴェル／シェエラザード*

ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲

フロラン・シュミット／バレエ組曲「サロメの悲劇」作品50

指揮：ステファヌ・ドゥネーヴ

メゾ・ソプラノ：ステファニー・ドゥストラック*

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥65,970 A ¥56,610 B ¥44,010 C ¥35,730 D ¥27,540 D(ユースチケット) ¥9,000(税込)

シーズン会員券(3回) | S ¥23,820 A ¥19,860 B ¥15,570 C ¥12,540 D ¥9,480 D(ユースチケット) ¥3,900(税込)

PROGRAM

B

サントリーホール

[水] 7:00pm

[木] 7:00pm

※サントリーホールの改修工事に伴い、2022年4月の公演は開催を休止します。
※1回券料金が公演ごとに異なります。

2021

September

09

第1937回

9/15 [水] 7:00pm

9/16 [木] 7:00pm

古楽の巨星が新たな命を吹き込む
バロック・古典の名品

バッハ／組曲 第3番 二長調 BWV1068
C. P. E. バッハ／チェロ協奏曲 イ短調
ハイドン／交響曲 第98番 変ロ長調 Hob. I-98
指揮：トン・コブマン
チェロ：ニコラ・アルトシュテット

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2021

October

10

第1941回

10/27 [水] 7:00pm

10/28 [木] 7:00pm

プロムシュテットが慈しんで奏でる
母国スウェーデンの傑作と《運命》

ステンハンマル／セレナード へ長調 作品31
ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67
指揮：ヘルベルト・プロムシュテット

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2021

November

11

第1944回

11/24 [水] 7:00pm

11/25 [木] 7:00pm

ルイーゼの十八番
チャイコフスキー《交響曲第5番》を堪能する

パガニーニ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品6
チャイコフスキー／交響曲 第5番 ホ短調 作品64
指揮：ファビオ・ルイーゼ
ヴァイオリン：フランチェスカ・デゴ

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥5,800
A ¥8,400	A ¥4,800
B ¥6,700	B ¥3,800
C ¥5,400	C ¥2,800
D ¥4,400	D ¥1,800

2021

December

12

第1947回

12/15 [水] 7:00pm

12/16 [木] 7:00pm

期待の俊英指揮者による
ドイツ・オーストリア音楽を俯瞰するプログラム

ハイドン／交響曲 第22番 変ホ長調 Hob. I-22「哲学者」
HK グルーバー／エアリアル[日本初演]*
R. シュトラウス／交響詩「ツァラトゥストラはこう語った」
作品30

指揮：ディマ・スロボドニェウク
トランペット：ホーカン・ハーデンベルガー*

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥5,500
A ¥7,400	A ¥4,500
B ¥5,800	B ¥3,500
C ¥4,700	C ¥2,500
D ¥3,700	D ¥1,500

2022

01

January

第1950回

1/26 水 7:00pm

1/27 木 7:00pm

色彩の魔術師・ツヒエフがセレクトする
プロコフィエフの煌めく名品

プロコフィエフ／歌劇「戦争と平和」―「ワルツ」
プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 八長調 作品26
プロコフィエフ／交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

指揮：トゥガン・ツヒエフ
ピアノ：ハオチェン・チャン

一般

ユースチケット

S ¥8,900 S ¥5,500

A ¥7,400 A ¥4,500

B ¥5,800 B ¥3,500

C ¥4,700 C ¥2,500

D ¥3,700 D ¥1,500

2022

02

February

第1953回

2/16 水 7:00pm

2/17 木 7:00pm

バーヴォ・ヤルヴィ&ハーンの
イギリス&アメリカ・プログラム

ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」
―4つの海の間奏曲 作品33a
バーバー／ヴァイオリン協奏曲 作品14
エルガー／変奏曲「謎」作品36

指揮：バーヴォ・ヤルヴィ
ヴァイオリン：ヒラリー・ハーン

一般

ユースチケット

S ¥9,800 S ¥5,800

A ¥8,400 A ¥4,800

B ¥6,700 B ¥3,800

C ¥5,400 C ¥2,800

D ¥4,400 D ¥1,800

2022

04

April

サントリーホールの改修工事に伴い、
公演の開催を休止します。

2022

05

May

第1958回

5/25 水 7:00pm

5/26 木 7:00pm

名キャプテンルイージと
大海原を音楽で航海する

メンデルスゾーン／序曲「静かな海と楽しい航海」作品27
ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調
リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」作品35

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：小菅 優

一般

ユースチケット

S ¥9,800 S ¥5,800

A ¥8,400 A ¥4,800

B ¥6,700 B ¥3,800

C ¥5,400 C ¥2,800

D ¥4,400 D ¥1,800

2022

06

June

第1961回

6/22 水 7:00pm

6/23 木 7:00pm

しなやかに、颯爽と！
鈴木優人のモーツァルト《ジュピター》

バッハ（鈴木優人編）／パッサカリアとフーガ 八短調 BWV582
ブリテン／ヴァイオリン協奏曲 作品15
モーツァルト／交響曲 第41番 八長調 K. 551「ジュピター」

指揮：鈴木優人
ヴァイオリン：郷古 廉

一般

ユースチケット

S ¥8,900 S ¥5,500

A ¥7,400 A ¥4,500

B ¥5,800 B ¥3,500

C ¥4,700 C ¥2,500

D ¥3,700 D ¥1,500

(以上、すべて税込)

年間会員券(8回) | S ¥58,640 A ¥50,320 B ¥39,120 C ¥31,760 D ¥24,480 D(ユースチケット) ¥8,000(税込)

※Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません

PROGRAM

池袋



東京芸術劇場 コンサートホール

[金] 7:30pm / [土] 2:00pm

- ※ NHKホールの改修工事に伴い、定期公演Cプログラムは前シーズンに引き続き東京芸術劇場(池袋)に会場を移し、「池袋Cプログラム」として行います。
- ※ 休憩のない、60～80分程度の公演となります。
- ※ 1日目の開演時刻は、7:30pmに変更させていただきます。2日目は前シーズンに引き続き、2:00pm開演です。
- ※ 1回券と定期会員券の料金を変更しました。
- ※ 開演前に舞台上で、N響メンバーによる室内楽のミニコンサートを行います(15分程度、1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。室内楽演奏中の客席への出入りは自由です。

2021

September

09

第1936回

9/10 [金] 7:30pm

9/11 [土] 2:00pm

バルヴォ・ヤルヴィ&N響のバルトーク第3弾
名作《オケコン》を再び!

バルトーク / 組曲「中国の不思議な役人」
バルトーク / 管弦楽のための協奏曲

指揮:バルヴォ・ヤルヴィ

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2021

October

10

第1940回

10/22 [金] 7:30pm

10/23 [土] 2:00pm

巨匠が愛情をこめて奏でる
グリーグとドヴォルザークの名作

グリーグ / 「ペール・ギュント」組曲 第1番 作品46
ドヴォルザーク / 交響曲 第8番 ト長調 作品88

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2021

November

11

第1943回

11/18 [木] ※ 7:30pm

11/19 [金] 7:30pm

ブルックナーに情熱を傾ける
ルイーゼの《交響曲第4番「ロマンチック」》

ブルックナー / 交響曲 第4番 変ホ長調「ロマンチック」

指揮:ファビオ・ルイーゼ

※通常土曜日の公演(池袋C-2)を木曜日7:30pmに開催します

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2021

December

12

第1946回

12/10 [金] 7:30pm

12/11 [土] 2:00pm

飛躍を遂げたロシアの気鋭が
10年ぶりにN響の指揮台に立つ

チャイコフスキー / ロココ風の主題による変奏曲 作品33*
ムソルグスキー(ラヴェル編) / 組曲「展覧会の絵」

指揮:ワシーリ・ペトレンコ
チェロ:ダニエル・ミュラー・ショット*

一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2022

01

January

第1949回

1/21 金 7:30pm

1/22 土 2:00pm

濃密なロマンの香りを放つ
ソヒエフのブラームスブルッフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番ト短調 作品26
ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90指揮：トゥガン・ソヒエフ
ヴァイオリン：ワディム・グルズマン

一般

ユースチケット

S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2022

02

February

第1952回

2/11 金 祝 7:30pm

2/12 土 2:00pm

バーヴォ・ヤルヴィ&N響が大管弦楽で描く
アルプスの壮大なパノラマR. シュトラウス／バレエ音楽「ヨセフの伝説」から交響的断章
R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64

指揮：バーヴォ・ヤルヴィ

一般

ユースチケット

S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2022

04

April

第1955回

4/15 金 7:30pm

4/16 土 2:00pm

孤高の巨匠が迫るマーラーの本質
——エッシェンバッハの《交響曲第5番》

マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調

指揮：クリストフ・エッシェンバッハ

一般

ユースチケット

S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2022

05

May

第1957回

5/20 金 7:30pm

5/21 土 2:00pm

ルイーゼと丹念に磨き込む
ウィーン古典派の名品モーツァルト／歌劇「ドンジョヴァンニ」序曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K. 466
ベートーヴェン／交響曲 第8番 へ長調 作品93指揮：ファビオ・ルイーゼ
ピアノ：アレクサンドル・メルニコフ

一般

ユースチケット

S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

2022

06

June

第1960回

6/17 金 7:30pm

6/18 土 2:00pm

仏米2人の作曲家が伝える
1920～30年代 パリの息吹プーランク／バレエ組曲「牝鹿」
プーランク／オルガン協奏曲ト短調
ガーシュウィン／パリのアメリカ人指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ
オルガン：オリヴィエ・ラトリー

一般

ユースチケット

S ¥7,400	S ¥4,500
A ¥6,500	A ¥4,000
B ¥5,200	B ¥3,000
C ¥4,200	C ¥2,000
D ¥3,200	D ¥1,400

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥56,610 A ¥49,725 B ¥39,780 C ¥32,130 D ¥24,480 D(ユースチケット) ¥8,820(税込)
シーズン会員券(3回) | S ¥19,890 A ¥17,520 B ¥14,010 C ¥11,250 D ¥8,550 D(ユースチケット) ¥3,780(税込)

チケットのご案内(定期公演 2021年9月～2022年6月)

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 [11:00amからの受付]	9-10-11月	8月4日[水](会員) / 8月9日[月・休](一般)
	12-1-2月	10月26日[火](会員) / 10月31日[日](一般)
	4-5-6月	3月2日[水](会員) / 3月6日[日](一般)

※今後の状況によっては発売日が変更になる場合があります

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～30%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

- ※ Aプログラム、CプログラムはNHKホール改修工事に伴い、会場をNHKホールから東京芸術劇場(池袋)に移して「池袋Aプログラム」「池袋Cプログラム」として行います
- ※ Bプログラムはサントリーホール改修工事に伴い、2022年4月公演を休止するため全8回となります。シーズン会員券の販売はございません
- ※ 池袋Cプログラムは2021-22シーズンから会員券の料金を変更させていただきます

発売開始日 [11:00amからの受付]	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	7月15日[木](会員) / 7月18日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	10月15日[金](会員) / 10月21日[木](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2月22日[火](会員) / 2月25日[金](一般)

※今後の状況によっては発売日が変更になる場合があります

料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [池袋A]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥9,000 (¥1,000)
年間会員券(8回) [B]	¥58,640 (¥7,330)	¥50,320 (¥6,290)	¥39,120 (¥4,890)	¥31,760 (¥3,970)	¥24,480 (¥3,060)	¥8,000 (¥1,000)
年間会員券(9回) [池袋C]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥8,820 (¥980)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [池袋A]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,900 (¥1,300)
シーズン会員券(3回) [池袋C]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,780 (¥1,260)

※()内は1公演あたりの単価

WEBセレクト3+

お好きな公演を3つ以上セレクトすると、1回券がお得になります。Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種は自由にお選びいただけます。

- ※ WEBチケットN響のみでの販売となります
- ※ 1回券発売日からお申し込みいただけます

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

- ※ N響ガバのみの販売となります
- ※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただきます

お問い合わせ

N響ガイド | TEL 03-5793-8161

※営業日、営業時間はN響ホームページをご覧ください。

www.nhkso.or.jp

Please follow us on



Iwatani

水素で 世界を動かせ。

時代が問う。人類は次の100年を託せるエネルギーを持っているか。

私たちには、水素がある。燃焼してもCO₂を排出せず、

大きなパワーを生み、枯渇することがない水素は今、

発電、車両、鉄道、船舶、製鉄などさまざまな分野で、

脱炭素エネルギーの主役として大きな期待を集めている。

だから、もっと進もう。2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

水素で、社会を、時代を、世界を動かせ。

日本には、未来を変えるエネルギーがある。

水素シェア No.1[※]

Iwatani
岩谷産業株式会社

※岩谷産業株式会社は、水素ガスの販売において国内市場シェア約70%を占めています。(2020年12月現在、自社調べ)